



H30スローガン
「協働」



平成30年 6月 1日(金)
発行所: 中部教育事務所



日本の
ひなた
宮崎県

「初任者目線の研修を目指して」 ～「特別の教科 道徳」の授業を通して～



【所長講話より】
○新しい価値をもたらす仕事を創造
○「優しさと勇気」を地域ぐるみで育む
○オーセンティック(本物、真正)な授業の構築

先日、宮崎大学教育学部附属小・中学校を会場に、管内の「公立小・中学校初任者研修」を実施しました。主な内容は、午前中は講話「期待される教師像」、講義「特別の教科 道徳の授業の在り方」や授業参観(小:貴島美保教諭、中:瀬戸口和昭教諭)。午後は、道徳の授業の進め方について事後研究会や協議を行い、その後、道徳の授業づくりの演習に取り組みました。1日、どっぴりと「道徳」に浸り、理論、実践、アウトプットの流れで研修を行いました。

事前研究会

4つのチェックポイントからの授業構成

- 小: ○ 子どもの実態からねらいとする価値に向けて発問を精選した。
○ ひらがなが書けない児童がいる。役割演技等をしながら言葉で表現できるよう手立てを講じた。
- 中: ○ 導入では、体育大会の経験を想起させ、生徒の関心を高めさせる工夫を行った。
○ 多面的・多角的に捉えることができるように班で話し合う活動を取り入れた。

事後研究会

初任者の鋭い質問がお互いを高め合う

- 小: 25分という短い時間の中で14の質問。それに4つのチェックポイントからの的確に回答していただき、今後の道徳の授業の展開に大きな示唆を与えてくださいました。
- 中: 切り返しの発問や終末のまとめ方など、4つのチェックポイントを意識した質問が出されました。授業者はそれに対して、分かりやすく丁寧に答えてくださいました。

研究授業

4つのチェックポイントとの関連

初任者の学びで多かったものは・・・

- 教材研究を十分に行うこと。
- 児童・生徒の実態に合った授業を実施すること。
- 発問の精選(特に切り返しの発問)を行うこと。
- 児童・生徒の間、教師の間の取り方に配慮すること。
- 児童・生徒が飽きない手立て(役割演技・話し合い活動)を取り入れること。

1 教材研究を行っていく中で児童・生徒の実態に即した授業構成になっていた。

【チェックポイント2と関連】

2 内容項目が精選されており、テンポや間に配慮していた。

【チェックポイント2、4と関連】

3 発問が簡潔で、児童・生徒の反応によって切り返しの発問があった。

【チェックポイント4と関連】

講義

- 今までの真剣に取り組んできた道徳を無理に変える必要はない!
- 道徳的価値はしっかりと押さえる!
- 板書が大事!

演習・意見交換会



- みんな同じような悩みをもっているんだなあ～。
- なるほど! このように授業を流せばいいんだ!

※ 皆さんが共通した悩みや不安を抱えていることが分かっただけでも安心できたという初任者がたくさんいました。

